

伝統地生活者と研究者の視点

保全と再生に可能性

10月中旬、木曽町開田高原の伝統的管理の草地の半分にリンンドウやヤマラッキョウなど晩秋の花が咲く。9月に草を刈った片方には

地這(は)い性のキジムシロが残る。希少種のチヨウ、チャマダラセリの食草だ。来春この草刈り地には火は入らない。

「信州に素晴らしい草原がある」。研究者の言葉をきっかけに、同研究室の永田優子さん(25)は3年前に調査を始めた。今年は特に

「チャマダラセセリの蛹(さなぎ)が越冬し、火入れにあわずに生き残る場所となつている可能性がある」と

木曽町環境協議会の副会長・稻垣康さん(48)は、県の希少野生動植物保護監視員として伝統地でチャマダラセセリを見守る。環境

木曽町環境協議会の活動は個人では限りがある。ネットワークが必要」と同会の発足を提言した。昨年からは同会の事業として、NPO法人日本チヨウ類保存協会(東京都)の草刈りに協力する。

稻垣さんは「生活者や研究者など、それぞれの視点や立場の人がある。一度集まり話し合う機会があれば」と

てこられた幸せを感じる」と永田さん。

題は多い。何百年も続いた馬との生活で、草地が激減し、維持された「伝統的採草地の植生」が消えるかもしれない。

一方、比較調査で保全と再生の可能性を打てば非伝統的管理も見えた。日本の草地にも再生の可能

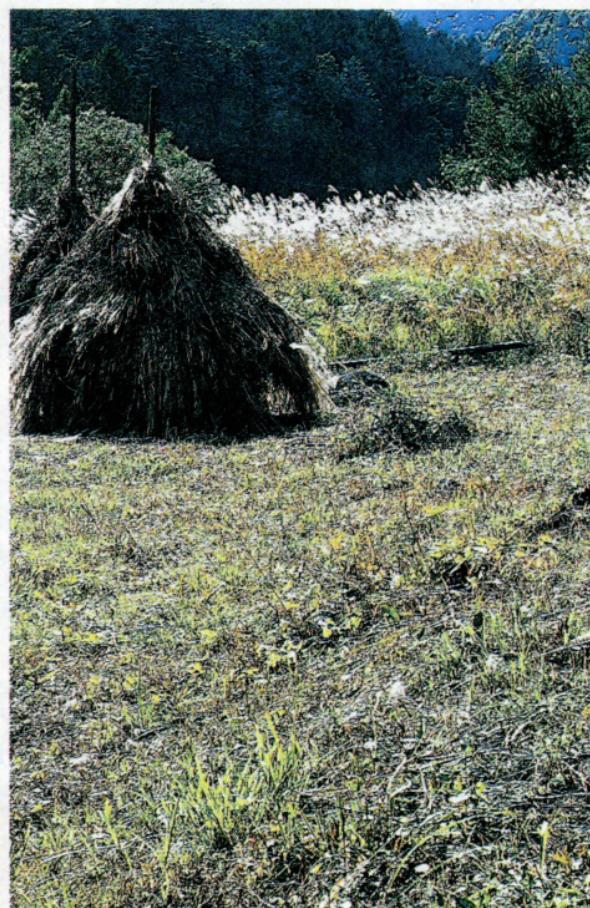
も見え始めた。日本の各地で草地が激減し、かつてありふれていた花々の咲く植生が消え中、開田はまだ潜在力が高い。「3年内に手

10月で終える。データの整理結果が待たれる。

開田の草地

木曽町開田の伝統的管理の草地の半分にリンンドウやヤマラッキョウなど晩秋の花が咲く。9月に草を刈った片方には「チャマダラセセリの蛹(さなぎ)が越冬し、火入れにあわずに生き残る場所となつている可能性がある」と神戸大学大学院生物多样性研究室の内田圭さん(33)は推測する。

木曽町環境協議会の副会長・稻垣康さん(48)は、県の希少野生動植物保護監視員として伝統地でチャマダラセセリを見守る。環境



木曽町環境協議会の副会長・稻垣康さん(48)は、県の希少野生動植物保護監視員として伝統地でチャマダラセセリを見守る。環境

木曽町環境協議会の活動は個人では限りがある。ネットワークが必要」と同会の発足を提言した。昨年からは同会の事業として、NPO法人日本チヨウ類保存協会(東京都)の草刈りに協力する。

稻垣さんは「生活者や研究者など、それぞれの視点や立場の人がある。一度集まり話し合う機会があれば」と

話す。(田澤佳子)

木曽町環境協議会の活動は個人では限りがある。ネットワークが必要」と同会の発足を提言した。昨年からは同会の事業として、NPO法人日本チヨウ類保存協会(東京都)の草刈りに協力する。

稻垣さんは「生活者や研究者など、それぞれの視点や立場の人がある。一度集まり話し合う機会があれば」と

話す。(田澤佳子)